

■部会名：地域産業部会

■部会長（有識者委員）：河西 邦人 委員

■市民委員：相田 晶子 委員、島本 和夫 委員、志水 有希 委員、寺岡 秀一 委員、
寺田 外治委員、峯田 智也 委員

■意見の概要

[顔づくり事業の説明に対する意見]

- ライフスタイルの変化により車で移動がメインになっているにもかかわらず、中心市街地の商店街に駐車場が無いことが大きなマイナスポイントであり、商店街低迷の原因となっているので、顔づくり事業の中でも駐車場の整備について考える必要がある。

[地域商店街活性化法の認定を受けた野幌商店街活性化計画の説明に対する意見]

- これについても駐車場が重要になってくるのではないか。
- 野幌駅周辺の再整備や8丁目通りの拡幅に伴う今後の商店街等の方向性やあり方については、野幌商店街振興組合や野幌駅周辺地区活性化協議会の議論で決まっていくということであるので、総合計画の中で扱うのは難しい。

[北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の説明に対する意見]

- 新総合計画の中で戦略テーマを設定するということが、フード・コンプレックス国際戦略総合特区の活用はそれに合致している。

[商店街の振興・物流]

- 8丁目通りを拡幅しても何をやるかということが決まっていなくて全部中途半端に終わってしまうのではないか。
- 小型店舗が今の倍稼ぐようになることは難しいと思うし、跡継ぎもいない。活性化するために雇用の機会を増やすには、大型店が必要。区画整理するのであれば大きな商業ビルをつくとよいのではないか。
- 身近な生活用品を売っているお店と飲食関係のお店が特定のエリアの中に集まっているところを「商店街」と呼んでいて、その活性化がこれまでの総合計画では重要視されてきた。一方で車で移動がメインのライフスタイルに変化したことで商店街は衰退しており、車を運転できなくなった方が商店街に戻ってくるかという商店街は面的に広がりがあるので歩いて買い物するのがつらいということがある。
- 最近江別では商店街の中に店を出すのではなく、住宅街の中にポツポツと店ができていて、特色のある店なのでみんな車で買い物に行く。商店街に店を出さないのは色々不便があるからである。商店街を必要とする人が少なくなったから寂れていくのである。
- 商店街は寂れているかもしれないが、江別市内で事業や商売をやっている人はたくさんいる。そういうところをもっと振興するためにどうしたらよいかを重要であって、商店街ではなく事業者を持ち上げるためにどうすればよいかを考えるべき。そのためにキ

ーワードとなるのは「物流」ではないか。

- 地域の中にもっと細かい物流網が必要。同じ商品を買うのであれば地元で買った方が物流コストは少なく済むので、安く早く買えるなど色々なメリットがあると思う。物流というのは地域産業とは切っても切り離せないもので、これからもっと重要なものになっていくと思う。商店街ではなく、今ある商店をどのようにネットワークでつなげて地域の中に浸透させていくかが重要。
- インターネットという革命的なツールができて、小売業の姿もずいぶん変わってきている中で、第5次総合計画のような商店街の振興というのは時代に合わなくなっているのかと思う。市民からすると商店街が必要なのではなく、商業機能すなわち自分たちが生活に必要なものを手に入れる機能が江別に備わっているかどうかポイント。
- 高齢者が増えてきてなかなか出歩けないとなると、例えば市内の物流網というものを商業者の人たちが集まって構築して、すぐに届けるような仕組みが必要になってくる。
- 大企業は自前で物流を構築できるが、小さいお店は単独ではできないので、みんなで協力して物流網をつくることで解決する。
- 物流網ができれば、あとはどうやって市民が買うか、どういうものがどこのお店にあって、安くていいものが手に入るというような情報を正しく入手できるようにすれば、市内の産業・企業は必ず活性化する。
- 江別にある既存の企業・お店の情報が市民に知られていない。知らないだけなので、知ってもらうことが必要。企業の努力が足りないだけかもしれないが、そこを何らかの形で行政が支援することができればよいのでは。
- 商店街という空間を取り払って、バーチャルな世界で商業者の人たちをうまく取りまとめて物流でつないで、地元の商業者の方々の商品を江別市民及び市外・道外に届ける仕組みを作っていくというのが今後の方向性の一つだと思う。
- 消費生活において、市民の7割～8割が市外（札幌）を向いている。その人たちの目を市内に向ければ7万人～8万人の目が市内に向く。そうすると今の市内企業の数では足りなくなり、仕事が生まれるし、仕事をしようと思う人が出てくる。そのための仕組みづくりが重要である。
- 大規模資本の企業の大きな物流ネットワークではできない、きめ細かで身近なサービスを提供できる小さな物流ネットワークを構築すればよい。それが安否確認など色々なところに波及する。
- 地域産業部会としては、従来型の商店街振興・商店振興ではなくて、その人たちが集まってきちんと江別市民の消費機能を守っていくようなネットワークづくりとか物流への支援をしていくという方向性としてはどうか、という提案としたい。

[福祉ビジネス]

- ヘルパーなどの給料がとても安く、すぐに人が辞めてしまう。
- 福祉に関する手続きはどうすればいいのか、誰に相談すればよいのかなど、包括的に相談できる場があるとよい。江別で福祉ビジネスを立ち上げるとすると、きめ細かいソフト面の支援サービスがよいのではないかと。やさしいまちというイメージにつながる。
- 産業として考えるなら、今後増えていく高齢者がターゲットとなる。
- 黒松内町は高齢者福祉施設を積極的に誘致して、その結果地元の高齢者の方だけでなく周辺の地域の高齢者も利用し、その高齢者のお世話をする若い人たちが町内に住むよ

うになって成功したという事例がある。

- 高齢者や子どもは労働人口ではないため、そこをターゲットにして産業として呼び込むビジネスは、市全体として見た場合に逆にお金がかかってしまう。福祉サービスとしては成り立つが、保険料などに余計に税金がかかってしまうという面がある。
- 経済合理性を考えると、江別市としては労働人口が定住できるような産業振興を行うべきで、高齢者等をターゲットにした福祉ビジネスという産業振興の方向性にウエイトを置くべきではないのでは。

【ICTビジネス】

- ICTビジネスは大都会でも田舎でもどこでもできるものと思われがちだが、実際の企業は札幌の街中にしかなく、江別には1社くらいしかない。そのため、この産業を振興するのは非常に難しいが、ICTビジネスに対して発注がたくさんあれば振興する。ICTビジネスに限らず、産業振興の基本としては全体として存在するお金の流れ（パイ）を市外ではなく地元・市内に変えていくことが重要である。

【観光】

- バスを使って、一か所ではなく何ヶ所も工場見学にまわって色々な景品をあげると参加者がたくさん集まり、お金にもなるが江別ではやっていない。江別の中小企業をまわるような工場見学ツアーなども新しい観光という視点からよいのではないか。
- 今すでにある江別の色々な資源を観光資源化していく、もしくは色々な地域資源をつないで観光資源化していく、ということだと思う。地域産業部会の切り口の一つとして、新しい観光の開発、江別流の観光の開発を戦略テーマに選びたい。
- 今すでにあるものを活用すべきだが、何があるかを知らない市民が多い。市外から来てもらうのも観光だが、市民目線の観光、自分たちで自分たちの地元のことを知るための観光が必要。
- 江別市民が江別のことを知らないせいで、市外の人に宣伝できない。市民の当事者意識を高めることも必要。
- 情報が点在していてわかりにくい。色々なホームページを見ないとわからないし、見づらい。ポータルサイトもあるが、バラバラに作成しているのでそれらをつなぐ必要がある。

【その他】

- 江別が他のまちと決定的に違うのは、箱モノや事業者などが充実しているところ。だがそれらがバラバラなので、それらを繋げることが産業振興になる。その繋げ方の一つが物流やインターネットなどである。そういった繋げ方を整理・把握することが行政に期待するポイントではないか。
- 行政が縦割りで横の連携がなくバラバラなので、全部総括する部をつくってまとめることで活性化させるとよい。
- 計画さえつくれば市役所はそれに従って動くので、縦割りで分断されないような計画をつくるのが重要。現在部会に分かれて個別に縦割りで議論しているが、各部長が集まって総合的に議論を共有し、統合する必要がある。
- 今後江別がどうやってお金を稼ぐかということを考えると、一つの切り口はフード・

コンプレックス国際戦略総合特区を活用した6次産業での振興である。例えば江別の小麦が地元で製粉されて、地元の中小企業がそれを加工して製品化し、そして地元で消費される。またそれが札幌の市場や道外の市場で売られることでお金を稼ぎ、地域の中で経済がまわっていく、という仕組みが6次産業の中でできていくはずである。これが地域産業部会の一本の大きな柱になる。

[河西部会長による本日のまとめ]

- 商業の機能を江別市として維持していくために、中小企業・中小商店・個人商店をきちんとネットワーク化して、地域の中での物流を確保してはどうか、というのが一つ。
観光に関しては、市民目線の観光を考えていく。今ある地域資源を観光資源化する、そしてネットワーク化して結びつけることで魅力のある江別を知ってもらおう、という話が出た。